



## 海洋レーダがとらえた紀伊水道に進入する津波

東北地方太平洋沖地震で発生した津波が紀伊水道に進入する様子を和歌山県に設置した2局の海洋レーダを使って面的にとらえることに成功しました。上図は、湊局に向かってくる流速成分（下左図破線に沿う成分）の時間変化を示しています。沖合から津波が3回押し寄せた後、翌日にかけて水道内には副振動が発達しました。下図は、第2波の押し波（左）と引き波（右）による流速分布です。沖合から進入した津波は等水深線に直行するよう岸に到達していることがわかります。現在、当研究室では海洋レーダにより得られる面的な津波情報を津波減災に役立てる技術を開発しています。

沿岸環境・防災研究部 沿岸域システム研究室

### 表紙写真：

- 左上  
大型水理模型を使った津波の河川遡上実験  
[河川研究室]
- 右上  
紀伊水道に設置された津波観測用海洋レーダ  
[沿岸域システム研究室]
- 左下  
老朽化した管路調査のスクリーニング手法検討のための実験施設  
[下水道研究室]
- 下中央  
赤外線サーモグラフィによる道路橋の非破壊検査  
[道路構造物管理研究室]
- 右下  
建築物の壁面を走行する外壁診断装置（プロトタイプ）  
[住宅ストック高度化研究室・構造基準研究室]